

1. RI スキャンニング用ファントム

竹井 力 渡辺 克司
(九州大学 放射線科)

Scinti-Scanner や Scinticamera の性能を調べる RI phantom はすでに Alderson Organ-Scanning phantom として発売されているが、これは取扱いが非常に面倒である。われわれはこの点を考慮して便利に使えるような phantom を試作した。臓器の原型は渡辺が作り、製作は千代田保安用品協会に依頼した。

この phantom は胴体を二つに分割し、特に使用頻度の多い肝臓は真中ではめ込みにした。肝臓を使うときは肝だけをはずして行なうので時間を要せず簡単である。腎臓と脾臓は脊側の部分に差し込めるようにしている。また、background としての RI も入れられるようになっている。

Alderson Phantom に比べて、取扱いが容易であり、胴体が二つに分かれているため重量が軽く、短時間に set できる特徴をもっている。肝、腎、脾の実質重量と寸法は解剖統計値(日本人の)と近似している。

質問：中川昌壮(熊本大学 第三内科)

1) お示しの臓器の重さは容器に何か入れたままの重さでしょうか。

2) 入手する場合価格はどんなものでしょうか。

答：竹井 力(九州大学 放射線科)

1) 臓器 phantom に水を入れて、その水の重量を臓器の重さとしました。ですから容器の重さではありません。

2) 価格はまだ分っていませんが、千代田保安用品協会から近日中に発売されるはずです。

質問：入江英雄(九州がん病院)

表に出た臓器の重さは教科書から引用したならその出所、自分の測定値なら何例の平均とかははっきりさせた方がよい。また phantom の重さが実際の臓器より重いのは何故か。

答：竹井 力(九州大学 放射線科)

表には記していませんでしたが、測定値は「解剖学」金原出版に記載されている日本人の臓器平均重量より引用したものです。

2. アイソトープ診療に関する一二の試み

松岡順之介
(小倉記念病院放射線科)

当院の新 RI 棟における一、二の試みについて報告する。

A) シンチカメラの使用：これまで一般に RI 検査のためスキャナー・レノグラムが用いられて来たが、検査件数をさばくため、その他の理由により予算をシンチカメラのみに絞り、一、二の改造を行なった。今後カメラのみによる検査能力について検討の予定である。

B) 患者監視：体内に RI (Ra を含む) を入れた患者の監視に際しての看護婦の被曝は、その精神面からも軽視できない。このため体温、脈拍の測定に ICU の装置を利用した。また TV による監視をいわゆる“TV 電話”式の相互型とし、平時ベッドサイドのモニターにより一般放映をみられる患者は、コールサインにより看護婦の姿を間近に見得る。これによってその不安感を減じ得れば幸いと考えている。

質問：中川昌壮(熊本大学 第三内科)

シンチカメラの使用経験がないのでお教え願いたいですが、先程お示しのような円形の部分を真中で分することにより、左右の臓器、例えばレノグラムならば左右の腎による干渉はないものでしょうか。

答：松岡順之介(小倉記念病院)

任意の矩形の測定野を二つ腎の位置に設けることは左右間の干渉はないと考えます。

質問：有水 昇(千葉大学 放射線科)

立派な監視装置付の RI 病棟ですが RI 治療のみならず RI 診断用の患者も入院させる必要があるとお考えですか。

答：松岡順之介(小倉記念病院)

診断、治療患者ともに RI 病棟に收容することが望ましいが、現状では診断患者まですべて RI 病棟に入れることは不可能ではないかと考えます。

3. ^{67}Ga による腫瘍スキャンニング

尾関己一郎 古川 保吉
(久留米大学放射線科)
江頭 耕作
(同 泌尿器科)